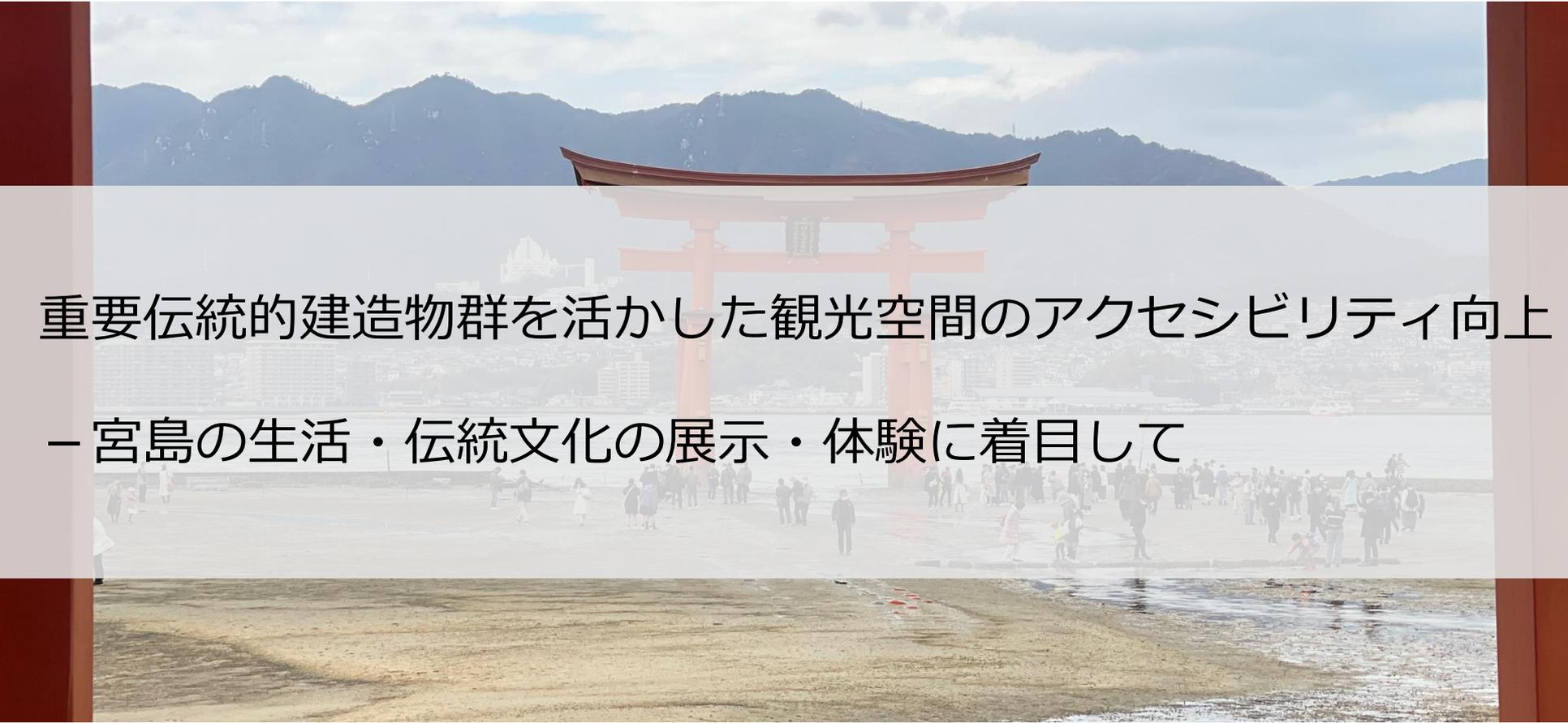


2024年度広島大学「地域の元気応援プロジェクト」中間発表



重要伝統的建造物群を活かした観光空間のアクセシビリティ向上 — 宮島の生活・伝統文化の展示・体験に着目して

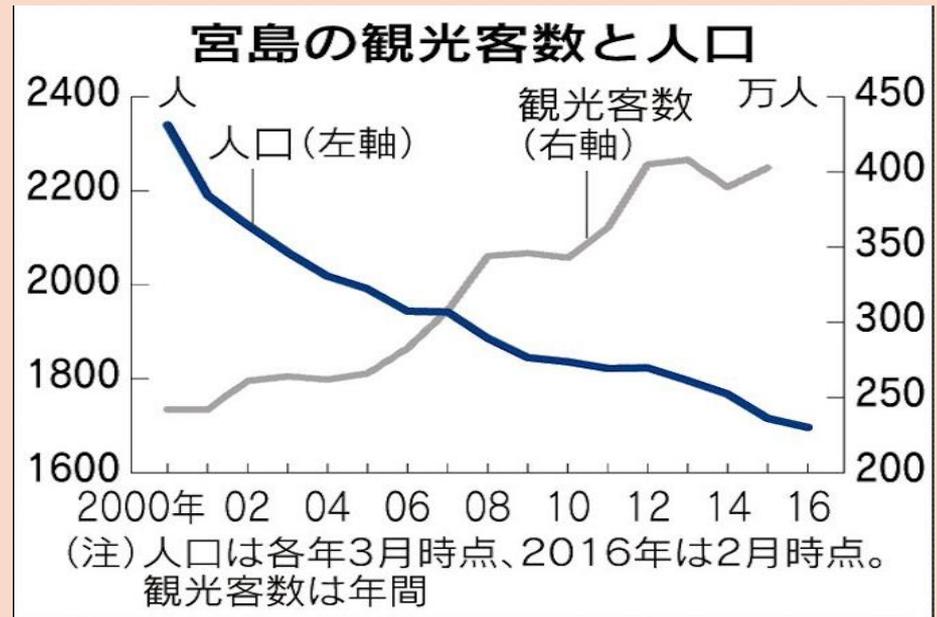
地域団体: 宮島中江町活性化協議会 (代表者: 寺澤潤哉)

教員: フンク・カロリン(教授・責任者)、田中貴宏(教授)、張慶在(准教授)、王楚君(特任 助教)

学生: 広島大学総合科学部国際共創学科、大学院先進理工系科学研究科の学生6名

①研究背景

- 465万人の観光客
(2023年)
- 1500人未満の住民
(2024現時点)
- 伝統文化の継承危機
- 観光客の空間的集中



(日本経済新聞 : https://www.nikkei.com/news/print-article/?R_FLG=0&bf=0&ng=DGXLZO98347640R10C16A3LC0000&uah=DF161220092268)

プロジェクトの流れ

観光客
アンケート調査

①**観光の現状把握**：文化・伝統的建築物への関心、
観光空間のアクセシビリティ

参与観察
聞き取り調査

②**地域活動の持続性を把握**：中江町活性化協議会主催の
イベント、参加意思の持続性・影響要因

文献・空間調査
聞き取り調査

③**重伝建の調査**：伝統文化＋空間＋住民の経験・記憶・意見

文化の解釈
空間デザイン

④**重伝建活用の提案**：伝統文化・伝統工芸の展示・活用
観光客と住民が共に文化体験できる空間づくりを検討

①観光の現状把握

観光客の行動

アンケート（76）：日本人18人、外国人58人

参与観察：中江町の入り口

観光アクセシビリティ

アンケート（70）：日本人11、外国人59

インタビュー：観光協会担当者、白杖の方

参与観察：車椅子で移動

①観光の現状把握：観光客の行動

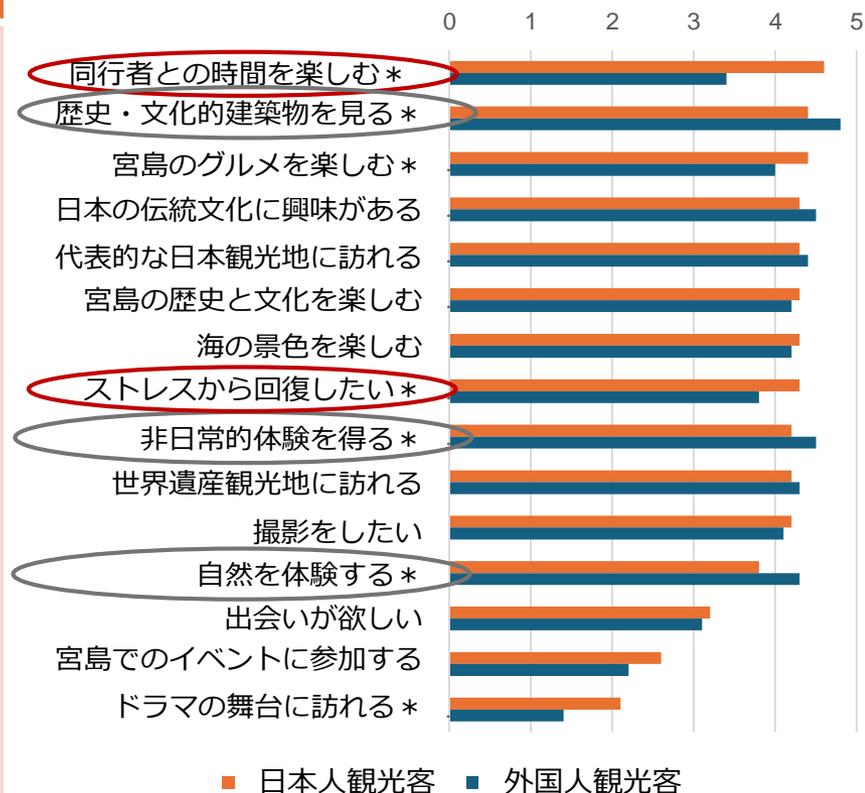
宮島を訪れた理由

・歴史的・文化的な体験を重視することは共通

・日本人：同行者との時間、ストレスからの回復を重視する傾向

・外国人：非日常的な体験として文化や自然を体験することに重きを置いている

宮島を訪れた理由 *有意差のある項目



○ 日本人の特徴 ○ 外国人の特徴

①観光の現状把握：観光客の行動

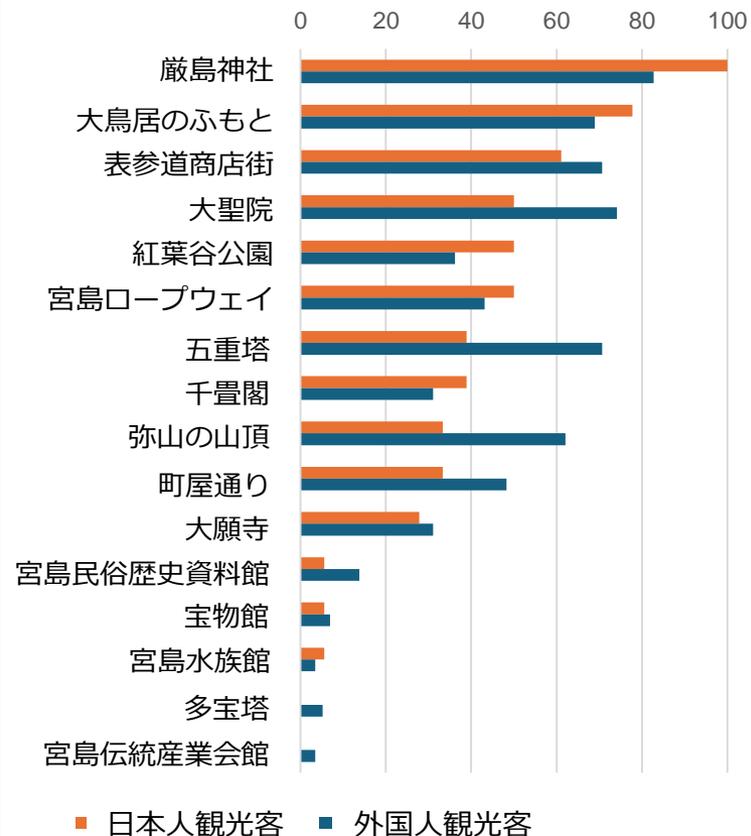
宮島での行為

・日本人：
厳島神社や大鳥居など**メジャー**な観光地
を中心に訪れる傾向

・外国人：
マイナーな観光地も含めて多くの観光地
を訪れる傾向

弥山を訪れる割合が高く、宮島を訪れる
理由が自然体験を重視していることが影
響していると考えられる

訪れた場所（複数回答）



①観光の現状把握：観光アクセシビリティ

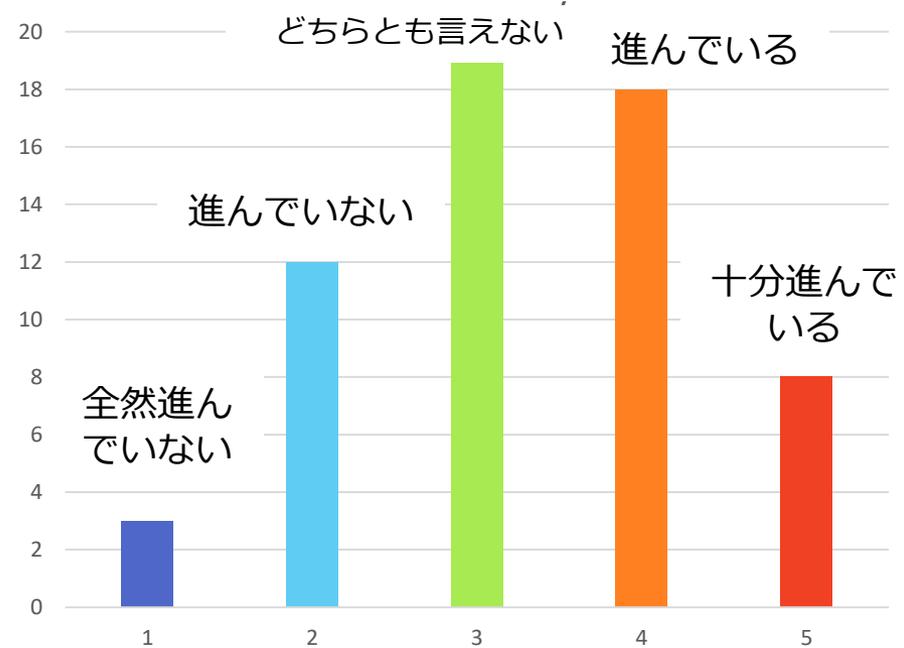
・バリアフリーについて

→若者は不便を感じていないが、年齢が上がるにつれ不十分だと感じる人が多くなる

・観光スポットへのアクセス

→主要な観光スポットから離れた観光スポットの場所がわかりにくい

バリアフリー整備の全体像



①観光の現状把握：観光アクセシビリティ

提案：

- ・多言語対応ができる店員の増加
- ・マップの製作：
 開店情報
 観光の目安時間
 厳島神社から他の観光地への行き方
- ・タクシーの増加
- ・オーディオガイドの整備
- ・海岸通りの入口の門を開ける



フェリー乗り場ー海岸通り

②地域活動の持続性を把握：伝統・生活文化の参与観察

9月1日－3日
マルシェ, たのもさん



参与観察

12月22日
マルシェ, 松明作りワークショップ



アンケート調査 (75、集計中)
参与観察

②地域活動の持続性を把握：伝統・生活文化の参与観察

わかったこと

- ・ 地域住民が毎年自発的に参加しているが、**担い手不足**が現状
- ・ **学生が主催**に関わっている
- ・ 観光客が伝統行事に興味を持つ

課題

- ・ 行政側による支援は一年限りで、資金面の不足が見られる
- ・ 宗教と関わる行事の場合、随意的な観光化に対して住民の不満を招く恐れ
- ・ 学生が大学プロジェクトやゼミ活動の関係で参画しており、**持続性のある仕組み**ができていない

③ 重伝建地区の調査

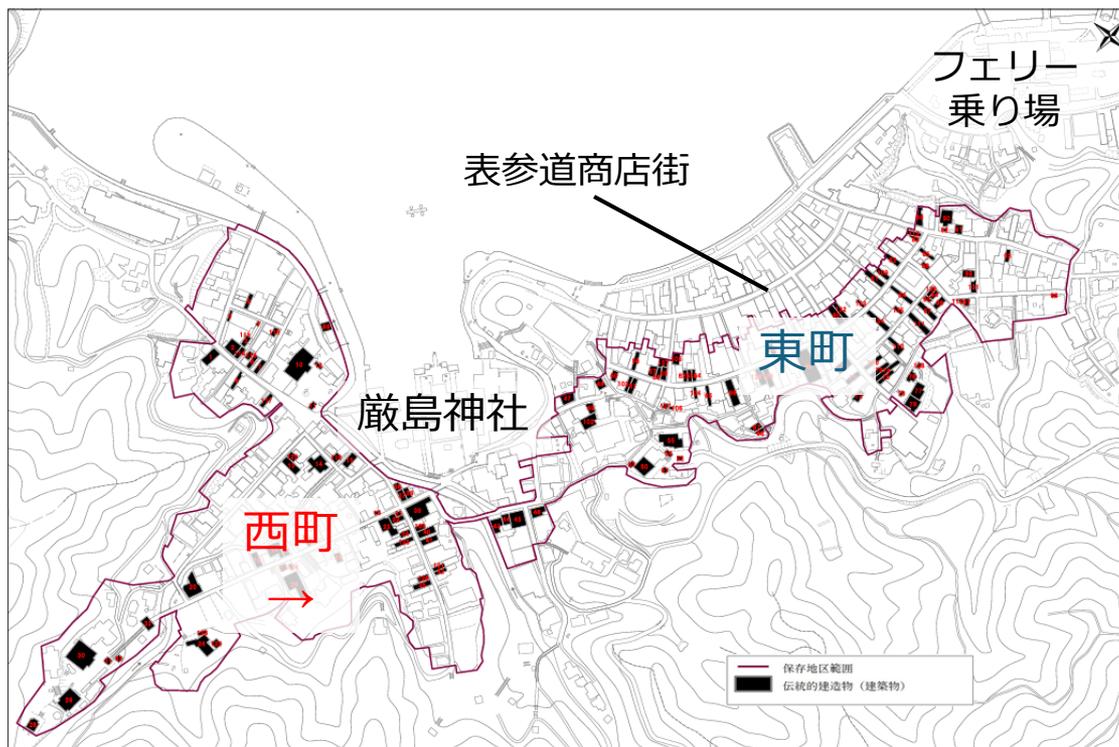
◆重要伝統的建造物群保存地区

種別：門前町

面積：約16.8ヘクタール

選定年月日：令和3年8月2日

伝統的建造物（建築物）：136件



東町の伝統的建造物



西町の伝統的建造物

重要伝統的建造物群保存地区の範囲

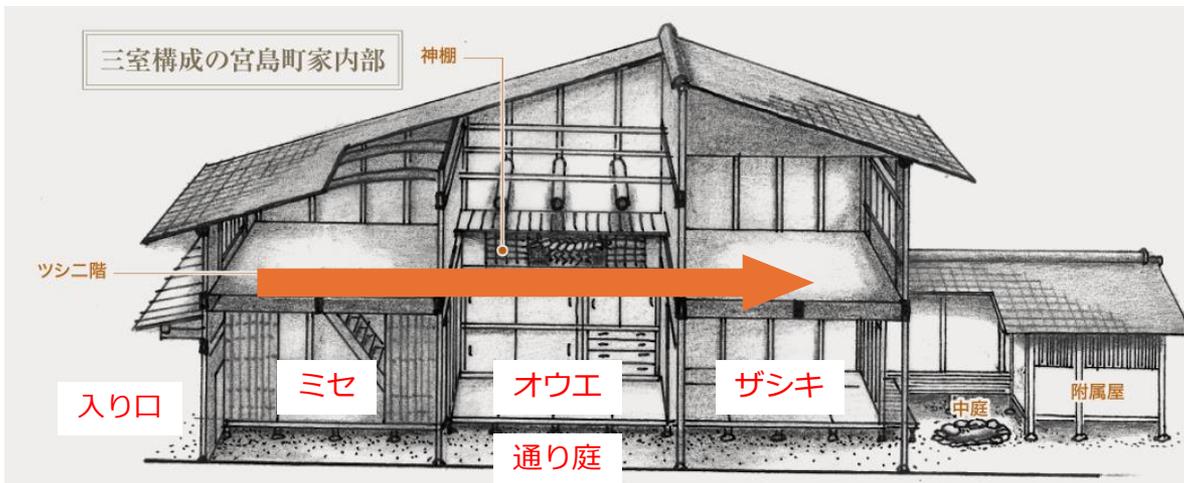
③ 重伝建地区の調査

◆ 伝統的建造物の特徴

入り口から続く通り庭に沿って**ミセ・オウエ・ザシキ**と呼ばれる部屋が並ぶ

- ①通り庭：入り口から中庭まで続く土間の空間
- ②ミセ：元々は店舗や仕事場、**荷物の搬入・搬出場所**として使われていた
- ③オウエ：神棚があり、住居の中心となる**象徴的な空間**
- ④ザシキ：**日常生活に用いられる場所**

「オウエ」の様子



出典：重要伝統的建造物群保存地区「廿日市市 宮島町」



撮影：2024/9/30（インタビュー時）

建物の内観から**信仰の文化**や**昔の暮らしの様子**を読み取れる

③ 重伝建地区の調査

◆ 伝統的建造物の写真（インタビュー時に撮影）



建物自体（外観や構造、建具など）や
建物内部での生活体験が**観光資源**となり得る

③ 重伝建地区の調査

◆所有者と活用者へのインタビュー（15人）

重伝建活用の現状

- ・活用したいが、**アイディアがない**
- ・手放ししたくない
- ・高齡化、**後継者不足**
- ・跡継ぎの選択肢を狭めたくない
- 登録しない
- ・重伝建に登録されない物件も多い
- ・物件の改装と修理に莫大な資金

重伝建活用の現状

- ・空き家の情報にアクセスしにくい
- ・初期コストが高い

重伝建活用の課題

- ・空き家情報の収集と発信
- ・空き家仲介者の仕組みづくり
- ・**活用案の不足**
- ・資金面での支援
- ・**担い手不足**

...



所有者



活用者

地域の元気応援プロジェクトの利点と今後の展開

利点

学生：卒業論文
他大学の学生との協働
地域との交流

地域：活動の主催

大学：地域に根差した教育
地域貢献研究

今後の展開

- ・レポートをまとめて、地域側と共有
- ・学術論文の作成
- ・継続プロジェクトの申請

継続：重伝建活用案として

◆ 高齡化、担い手不足

◆ 学生活動の持続性

◆ アイデアが足りない



重伝建を利用して、宮島で
学生プロジェクト・ステーシ
ョンを作れるか？

2024年度広島大学「地域の元気応援プロジェクト」中間発表



ご清聴ありがとうございました！

地域団体:宮島中江町活性化協議会（代表者:寺澤潤哉）

教員:フंक・カロリン(教授・責任者)、田中貴宏(教授)、張慶在(准教授)、王楚君(特任 助教)

学生:広島大学総合科学部国際共創学科、大学院先進理工系科学研究科の学生6名